

第4回 第6期雄武町総合計画策定審議会 議事録

【日 時】 平成29年5月26日(金) 19:00～20:45

【場 所】 地域交流センター 1F 多目的ホール

【出席者】	委員	大星 幸恵	委員	加藤 孝義	委員	河島 仁	委員
		工藤 瞳	委員	桑井 美彦	委員	佐々木伸行	委員
		白石 豊喜	委員	高橋 進	委員	直井 香織	委員
		安田 将治	委員	山片 正晃	委員	山崎 穰	委員
		渡邊 恵	委員	渡部 康太	委員		
欠席者		相坂 英代	委員	石橋 啓文	委員	大場 道子	委員
		久保 毅剛	委員	田口 洋	委員	鉄川 潤	委員
		中島 克弥	委員	新山 貴文	委員	三河 貴明	委員

事務局 佐々木財務企画課長 大水財務企画課長補佐
早坂企画調整係 本村企画調整係

- 【会議次第】
1. 開会
 2. 委嘱状交付
 3. 会長あいさつ
 4. 議事

【報告事項】

(1) ワークショップ「ワールドカフェ」活動報告

【協議事項】

(1) 第5期雄武町総合計画の検証と今後の課題

(2) 第6期雄武町総合計画策定における将来像

5. その他
6. 閉会

- 【配布資料】 ・ 第6期雄武町総合計画第4回策定審議会議案
- ・【資料1】 ワールドカフェ活動報告
 - ・【資料2】 第5期雄武町総合計画の検証と今後の課題
第5期の10年・第6期の10年
 - ・【資料3】 第6期雄武町総合計画策定における将来像について

【議事録】

1. 開会

(佐々木財務企画課長)

皆様お晩でございます。本日は夜分遅くお疲れのところ、お集まりいただきましてありがとうございます。ご案内の時間になりましたので、只今から第4回の策定審議会を始めたいと思います。本日は会議に入る前に、本年3月まで委員でありました汐後委員及び福士委員が人事異動により雄武町から転出されました。後任については、4月に着任されました雄武中学校長の山崎穰様、北見信用金庫雄武支店長の白石豊喜様に対して、策定委員のお願いをしたところ2名から快諾をいただきました。

ただいまから辞令書の交付をしますので、よろしくお願いします。

— 委嘱状交付（佐々木財務企画課長から手交） —

2 会長あいさつ

(河島会長)

皆様、お晩でございます。5月末のお忙しい中、また肌寒い中にも関わらずご出席いただきまして、ありがとうございます。先ほど委嘱状を交付いたしました2名を新しく迎えまして、今年度の初めての審議会が始まる訳でございます。2名につきましては、後ほど簡単に自己紹介をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。この策定審議会も回を重ねて4回目となります。今回も忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

それでは、新しい2名の方に簡単に構いませんので、自己紹介をお願いしたいと思います。

3 委員自己紹介

(白石委員)

皆様、お晩でございます。この4月に北見信用金庫雄武支店に着任しました白石豊喜と申します。よろしくお願いします。日頃より皆様にはお取引などいただき、この場をお借りしまして感謝を申し上げます。雄武支店に着任する前は、名寄市に3年間、その以前は紋別市で勤務しており、そこで1年間まちの委員をしております。

した。また、名寄市でも市の総合計画でオブザーバー的な立場でも行政に携わっていましたので、雄武町でもそのような経験を踏まえて、雄武町の総合計画の役に立てればと思っていますのでどうぞよろしくお願いします。

(山崎委員)

皆様、お晩でございます。雄武中学校に4月から着任しました山崎穰と申します。前任は、紋別市立小向小学校です。小規模の小学校で、雄武町にある小学校よりも児童数は少ない状況です。私が退任時は、児童数は6人でした。小規模で児童と接することは地域と密接に関わることとなりますので、学校が中心となって、地域を盛り上げていく役割を感じていました。どうぞよろしくお願いします。

(河島会長)

ありがとうございました。2名につきましては、人生経験豊富であり、他市町で様々な経験をしている方ですので、この策定審議会ではフレッシュな風を吹かせていただけるよう期待していますので、よろしくお願いします。早速ですが、議事に入ります。報告事項(1)のワークショップ「ワールドカフェ」活動報告について、事務局から説明をお願いします。

【報告事項】

・ワークショップ「ワールドカフェ」活動報告

(大水財務企画課長補佐)

皆様こんばんは。会長から冒頭に話がありましたが、新年度最初の審議会となります。本来4月に開催する予定でしたが、1ヶ月程遅くなりましたことを事務局からお詫び申し上げます。

資料1の報告事項(1)のワークショップ「ワールドカフェ」の活動報告の説明です。ワールドカフェの概要ですが、委員の皆様にもちづくりに関する短歌づくりを通して、施策提案やまちづくりのキーワードを引き出し合うという趣旨で実施いたしました。去年12月、今年は2月と2回開催しまして、資料の写真に掲載のとおり委員の皆様には役場若手職員と熱い思いを込めて語り合い、コミュニケーションを取っていく中で、ご指導などをいただいたことについて、職員の立場として厚くお礼を申し上げます。参加した若手職員からは、「委員の皆様には顔を覚えていただいた」、「貴重な体験をし有意義な時間であった」等、多数意見をいただいています。

2頁に移りまして、第1回目のワールドカフェでは27句、第2回目のワールドカフェでは39句、合計で66句の短歌が完成しました。そこで、いくつかの短歌を紹介いたします。

はじめに「広大な 土地活用の まちづくり 産業おこし 明るい未来」です。雄武町は都会と比べて圧倒的に土地活用のアドバンテージがありますので、地の

利を活かしたまちづくりをしてはどうかといった提案に繋がるかと思います。

次に「鮭のよう 戻りたくなる 街作り」です。こちらは、Ｕターン施策を充実してはどうかといった提案もありました。

次に４頁の「牛臭い 農家で発した 一言に 本気で怒った父の顔」ですが、これは小さい頃の若手職員だと思いますが、農業従事者や家畜で生計を立てる方々に対して敬意を表すよう、父に叱られたことが忘れられないといった思い出を短歌にしています。

次に５頁の「仕事帰り 毎日行きたいスナックに けどお金が 足りないよ」です。都会では安いお店がありますが、田舎に来るとなかなか何度もお店へ行けないという短歌だと思います。仮に、若者が使えるクーポン券などがあれば、飲食店がさらに潤うのではないかとといった提案にも繋がるかと思います。

最後の６頁「無くなって 初めて思う 我が母校 寂しいのやら 悲しいのやら」です。この１０年間で、町内の小学校が栄丘小学校と幌内小学校の２校が閉校し、寂しいと同時に閉校した校舎をどのように利活用するかを検討しなければならないと思います。

総括ですが、第６期総合計画の策定に向けて、多くの町民の皆様アンケート調査を実施しました。それからまちづくり短歌づくりを通して、今後１０か年のまちづくりの課題や方向性が再認識することができました。今後、計画を作り進めていく中で、結果を出していくことは重要ですが、プロセスの段階で町民の皆様と若手職員が課題など情報を共有できたことは、大きな成果の一つだと思います。新年度に入りまして、いよいよ本格的に始まりますが本日の会議におきましても、委員の皆様から忌憚のないご意見やご提案をいただけたらと思いますので、よろしくお願いします。報告事項(１)の説明については、以上となります。

(河島会長)

ありがとうございました。報告事項に関しまして、質問はありませんか。

(委員)

意見なし

(河島会長)

続きまして、協議事項(１)第５期雄武町総合計画の検証と今後の課題について事務局から説明をお願いします。

(大水財務企画課長補佐)

続いて、資料２の「第５期雄武町総合計画の１０年と第６期雄武町総合計画の１０年」の説明となります。これは、昨年実施しましたまちづくりアンケート、産業団体や役場内部の担当者からのヒアリング、計画づくりのサポートをしていただ

いている研究員の視点を踏まえ、総合計画の基本施策単位で第6期に向けた課題を要約したものです。

2頁目には、「24」の基本施策があります。基本施策の内容に入る前に、最後の残り2頁に第5期雄武町総合計画に関する体系の説明が記載されています。「政策目標」が5つあり、産業関係の「はつらつ・雄武～地域産業の振興～」、子育てや医療福祉関係の「ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～」となります。そして、次頁に移りまして、教育関係の「のびやか・雄武～教育・文化の振興」、インフラ関係の「うるおい・雄武生活環境・生活基盤の充実～」、「ささえあい・雄武～協働によるまちづくりの推進～」という区分となります。その政策目標の下に基本施策として、全部で「24」の構成となっています。3頁に戻り5つの政策目標区分ごとに説明後、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。始めに産業関係「はつらつ・雄武～地域産業の振興～」の説明に入ります。

最初に、基本施策「1 農業の振興」です。左上の図のとおり農業産出額ですが、この10年間で1.5倍である20億円の増となっています。統計的に見ても、順調に推移しているといえます。右下の緑の欄については、第6期雄武町総合計画の課題を整理としたものが記載されています。第6期に向けて、農業では（1）国営緊急農地再編整備事業の推進、（2）では現在、メガファームの動きがあるように協業化や法人化の促進、（3）の新規就農支援の強化、（5）の韃靼そばを活用した地域の活性化では、雄武町の新たな名産品にしたいということで生産法人が立ち上がっています。こうした現在進行形での方向性を課題として示したところです。

次に「2 林業の振興」です。左下グラフにS J E C認証取得率80.75%とありますが、これは適正に管理されている森林面積の割合で、森林認証取得率のことです。これは、全国に比べてオホーツク管内が面積の取得率が高い現状です。第6期の課題として、（1）担い手の確保や育成や適伐材の伐採や販売があります。次の記載に、（2）紋別のバイオマス発電との連携、とありますが、実際に材を出して数字的には高く購入していただけたというメリットはありますが、ここで紋別との連携というところまで踏み込んだ表現で良いのか、意見があればお願いします。

次に「3 水産業の振興」です。グラフのとおり漁業の増産が図られています。しかし、数年ごとの時化の影響により減産を余儀なくされることが起きているため、安定的な資源管理の確保を優先しなければなりません。第6期の課題として、（3）衛生基準の高いE Uハサップ対応の推進により、海産物の輸出として、欧州市場への開拓を進めてはどうかといった方向性が示されています。

次に「4 商工業の振興」です。下図の表のとおり製造品出荷額及び商業統計調査で、商品販売額が両方とも減少しています。これは、平成23年に中堅企業のオホーツクニチロ工場が撤退した影響で、数字にも反映されています。それから現在、雄武町の人口は4,500人程ですが、1割は水産加工業の従事者で、地域の雇用を支えています。人口減少を食い止める手段のひとつとして、6期の課題に記載

のとおり（１）水産加工業の持続的な振興が必須であるということです。（３）の商工会の関係では、「のびのび雄遊らんど事業」と具体的に名称が記載されていますが、これは空き店舗対策事業のことです。次に「移動コンビニ事業」と記載されていますが、こちらを「移動販売事業」と修正してください。今後、事業を発展させ移動コンビニにしたいという意向もあり、これについては商工会からヒアリングした際の内容となっています。

次に「５ 観光の振興」です。雄武町の観光協会ですが、以前は行政のほうで事務局があり、その後法人化し、現在３年が経過しています。これからはイベント観光で一步踏み込んだ内容や、ホテル日の出岬を拠点とした体験型のメニューを具体化する時期になっていくかと思います。第６期の課題として、行政としても側面的に支援をして、観光をいかに地域経済に波及させることが、今後重要なテーマになるかと考えています。現在、紋別市、滝上町、興部町、西興部村、雄武町の西紋別地区の５市町村で、広域的に観光分野で取組む動きがあり、まだ明確ではありませんが、広域で取組むということは外国人のインバウンド客も想定されます。その際町としてどのように対応するかなど整理する必要があると考えています。

以上が政策目標の「はつらつ・雄武～地域産業の振興～」５項目の説明となります。

（河島会長）

ありがとうございました。産業関連に従事している方もいますが、そこで何か言わせていただきたいなど、また、他の委員の方からも質疑質問があれば、お願いします。

（安田委員）

漁港整備の関係で、ハード面の整備のみでなく、ソフト面の要素を含めた楽しめる体験施設は考えていないのですか。

（大水財務企画課長補佐）

第６期総合計画に向けて、（１）から（３）までの課題の記載がありますが、ソフト的な部分もセットとして、そのような意見も反映していきたいと考えています。

（安田委員）

よろしくお願いします。

（河島会長）

その他に質問がないようですので、次の施策の「ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～」の説明をお願いします。

(大水財務企画課長補佐)

まず、「6 保健・医療の充実」です。この10年の第5期総合計画の期間の中で、国保病院の病床を老人保健施設に移行した大きな動きがありました。下図のグラフのとおり地域医療の満足度において、10ポイント上昇しています。現状ではまだまだ低い数値ですので、もっと満足していただくよう取組む必要があると認識しています。第6期の課題ですが、(1)から(3)までは、健康に向けて具体的な対策について記載がされています。(4)は「ソーシャルキャピタル」と難しい表現ですが、こちらは研究員からの提案で、本日の午後から行われた役場内の本部会議で記載しなくてもいいのではないかとといった意見がありました。

次に「7 高齢者支援の充実」です。第6期の課題として、特養・老健以外の多様な居住系サービスの確保についてですが、「居住系サービス」の中身とは、有料老人ホーム、グループホームやサービス付き高齢者住宅などのことです。現在は、介護保険施設として「特養」と「老健」があり、「居住系サービス」については、今後10年において検討してもいいのではないかとということで掲載されています。また、今年度は介護保険や高齢者福祉計画を策定することとなっており、そこでの議論と整合性を図った上で、総合計画も整理していきたいと考えています。

次に「8 子育て・子育ての充実」です。第5期総合計画の前半の部分で、雄武町の保育所を統合して、認定こども園を開設しました。そのほか、高校生までの医療費無料化を行っており、子育て環境分野においては力を入れてきた部分です。満足度としては高くはないですが、グラフのとおり10年で倍増しています。現在、子どもは減少していますが、それを悲観するのではなく考え方を変えて、子ども一人一人に手厚い支援ができるという発想として捉えていただきたいと考えています。また、子育て・子育て関係は、出生率に直結する分野でもありますので、第6期においても、重点的に進めていきたいと考えています。

次に、「9 障がい者支援の充実」です。障がい者自立支援法が整備されまして、左下のグラフのとおり10年間で国の予算が倍増しています。雄武町では、一昨年、人口減少対策である総合戦略を策定し、その中で福祉的就労の場を5年後までに1箇所を整備するという目標を掲げています。第6期の課題の中で、障がい者が自立し、きめ細かな支援の継続を行って、町内で就労し活躍できる場を設置する方向で検討を進めています。

次に「10 福祉の推進」です。この基本施策は健康分野や子ども関連の「ぬくもり雄武」の部分を含んでいます。第6期の課題として、(1)雄武版「我が事・丸ごと地域共生社会」の展開とあります。これは「一億総活躍社会」における福祉分野の包括的な支援体制づくりのことで、町としても独自に「雄武町版」の仕組みづくりを進めていく意味合いでこの項目を掲げています。

次に「11 社会保障制度の充実」です。国民健康保険、高齢者医療及び介護保険、国民年金は国の制度ですが、第6期においては、市町村で運営している国民健

康保険が都道府県化されます。雄武町では、一次産業に従事している方（国保加入者）が多く、平成30年度から国保健康保険が都道府県単位に集約されると、保険税率等が大きく変わるかと思います。それに伴い、保険税や給付の仕組みについて、町民の皆様に対して慎重かつ丁寧に説明することが必要になるかと思います。

以上が「ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～」の説明となります。

（河島会長）

以上の説明について質問はありませんか。産業関連に従事している方や、また、その他の方からの質問はありませんか。

（河島会長）

私からよろしいですか。雄愛園のことですが、老朽化が進んでいるので移転や新設の計画は町ではないのですか。

（佐々木財務企画課長）

現状として、具体的に移転などの話は進んでいません。

（渡部委員）

休日の対応できる医師の充実や専門医における担当日の確保についてお聞きします。

（大水財務企画課長補佐）

医師及び医療従事者の確保は長年の懸案事項であり、引き続き第6期総合計画においても、解決に向け対応していきたいと考えています。

（大星委員）

グループホームの関係ですが、高齢者だけでなく障がい者も入居できるグループホームもあると助け合いのまちづくりに繋がるかと思います。

（佐々木財務企画課長）

高齢者及び障がい者に特化した3ヵ年計画を総合計画と同時に今年度策定予定であり、本審議会の中でも意見の集約に努めていきたいと考えています。

（河島会長）

これ以上質問がないようですので、次の説明に入ります。続いて教育関連の「のびやか・雄武～教育・文化の振興」、からの説明をお願いします。

(大水財務企画課長補佐)

まず、「１２ 学校教育の充実」であります。先ほど報告のところでも触れましたが、第５期計画の１０年で２つの小学校が閉校した現状があります。基本的には学力向上を図っていくことがベースとなりますので、引き続きソフト・ハード両面での施策を継続していきます。また、第６期の課題（４）雄武高等学校の存続とありますが、これは町民アンケートや意見交換などでも非常に気がかりにされていた課題であります。第５期と同様の「雄武高校の存続の確保」と記載がありますが、本日午後の役場内部での会議で、第６期においては雄武高校を「絶対的に存続させる」と表現を強めるべきだと考えをまとめました。絶対に地域から高校を無くしてはならないという方向で第６期に向けて力を入れていきます。

次に「１３ 生涯学習・生涯スポーツの推進」です。第６期の課題として（２）新図書館での図書サービスの充実、新図書館のオープンを成功させることと、（１）スポーツセンターの老朽化への対応について、町民アンケートなどで非常に関心が寄せられています。「スポーツセンター」と記載がありますが、どうしても子どもや若者が使う施設というようなイメージをもたれてしまいます。今日の役場内部の会議でも、若い人のみならず高齢の方でも健康づくり、体力づくりの場として使用出来るよう複合的な施設を検討してはどうかという意見がありました。また、（１）と（２）の順番を逆にしたいと思っています。

次に「１４ 芸術・文化の振興」です。町民の文化活動については、写真にも掲載されておりますが、それぞれのサークルで継続が図られております。第６期の課題（１）歴史文化の保存と継承ですが、雄武町にも歴史・文化というものがあり、歴史的資料などが今眠っている状態です。新図書館の中で郷土資料を展示するスペースを設置できたら良いという話が出ています。そのような場合、郷土資料の企画展などを開催して、町民の皆様をはじめ外部に文化を発信していける環境を作っていきたいと考えております。

教育関係については以上となります。

(河島会長)

教育関係について、何か質問等ありますか。

(河島会長)

雄武高校の存続の関係でありますが、雄武中学校から雄武高校へ進学する生徒が減っている一方、町外の高校へ進学する人が増えています。中学校側として、何か理由を掴んでいるのですか。

(山崎委員)

前年度と比べてかなり人数が減っていると把握していますが、今の段階では具体的な理由は掴めていません。

(渡部委員)

サイクリングの関係であります、町にサイクリングのモデルコースがあれば、練習がしやすいと思います。

(大水財務企画課長補佐)

整備されたコースはないのですが、昨年度、商工観光係で町のサイクリングコースを設定し、今後検証などを行う予定です。

(渡部委員)

雄武高校の存続の関係なのですが、興部高校では制服が無料、通学に係るバス代が無料になっているなど、確かな情報ではありませんが話を聞いたことがあります。これは雄武高校より支援が手厚いのではないのでしょうか。

(大水財務企画課長補佐)

実際に実施していることと食い違っている部分があります。雄武高校でも通学や資格取得、制服購入、修学旅行に係る費用の助成を行っており、また、全道大会に行った際の部活動の支援などを考慮すると、予算の規模としては、本町のほうが手厚い支援であると思われます。

(渡部委員)

枝幸高校は町外の高校へ進学をしない仕組みがあると話を聞いたことがあります。今の話だと、雄武高校のほうが手厚い支援をしていることを知らない保護者もいるのではないですか。

(佐々木財務企画課長)

これは予算の関係だけではないケースであるとも考えられます。学校側に一任するのではなく、中学校と高校との連携を密にして、町の教育委員会も含めて情報を共有し、支援をしていかないと解決は難しいと考えています。

(安田委員)

部活動も少なからず影響しているのではないですか。

(佐々木財務企画課長)

それも一因であると考えられます。生徒が集まらなると部活動も充実せず、負の連鎖が生じています。まずは優先事項として生徒を確保しなければならないため、それに向けた施策を行う必要があります。

(高橋委員)

文化財の展示方法について、第5期の総合計画でも話が出たと思いますが、果たして進んでいるのですか。また、文化財を展示する施設の場所についてはどうお考えですか。

(佐々木財務企画課長)

郷土資料については、図書館の建設に向けて館内に展示コーナーを設ける計画をしています。来月には基本設計を発注する予定をしており、郷土資料の展示を視野に入れて設計を依頼する予定です。展示資料の分類の整理については、昨年度学芸員に依頼して、資料の整理を行いました。展示方法についても課題と認識しています。

(大星委員)

雄武町で行われるイベントの情報が入ってきません。また、以前広報誌に折込みを依頼した際に、断られた経緯があるのですが、どのような理由ですか。

(佐々木財務企画課長)

町が主催するイベントは必ず、町広報誌や少なからず町HPで周知していますが、パソコン環境がない人は、情報を入手できないかもしれません。広報誌については公共性を重視していますので、現状としては、線引きも難しいため民間団体が主催する広告については基本的に取扱っていません。

(白石委員)

昔、勤務していた紋別市や名寄市では、広告料を払って広報誌に掲載していました。

(大水財務企画課長補佐)

広報誌については、自治体によって広報編集方針があり、本町においてもニーズが高まれば検討の余地はあると考えています。今の段階では、営利目的などの掲載依頼は断っている現状です。

(山崎委員)

トレーニング室をもう少しきれいにしていただきたい。また、ロードランナーの健康機器を整えていただきたいです。今の状況では、中高年の方が健康増進に向けて「運動したい」と思える状態ではないと思います。

また、この10年間で栄丘小学校と幌内小学校が閉校しましたが、利活用の予定はあるのですか。

(佐々木財務企画課長)

第6期総合計画に向けた課題として認識しています。閉校した学校の利活用については、現時点で予定はありません。議会でも議論となりましたが、町としては、地域住民がどのようにしたいかを重要視しています。

(河島会長)

次は15番から21番の生活・インフラ関係の説明をお願いします。

(大水財務企画課長補佐)

はじめに「15 環境の保全」です。この項目は、自然保護やごみ処理体制の維持についてとなっており、引き続き地道に取り組んでいく必要があります。中央右の黄色い囲みの3行目「本町は、平成38年度まで、自町の最終処分場での埋め立てを継続予定」とありますが、再計算をし直したところ、もっと長く「当面は埋め立て処理が可能である」ということが昨年度判明しており、古いデータのまま記載されておりますので「平成38年度まで」ではなく「当面」処理を行っていただけますので、第6期の課題(4)ごみ・し尿処理の推進の括弧書きの文言は全て削除して下さい。また、(5)エネルギーの有効利用について、括弧内で具体的に畜産・木質バイオマスの活用促進と記載がありますが、バイオマスの活用の積極的な実施については特に決まっていないため、「再生可能エネルギーの検討・促進」と文言を修正したいと考えています。

次に「16 交通体系の整備」です。この項目では「町の道路や河川、橋の整備」ですとか、ソフト的な部分では「路線バス及び紋別空港の利用促進」といった部分について第6期計画においても継続して取組み、町民の利便性の確保につなげていきます。また、紋別空港の助成制度は毎年4,000万円の規模で予算が使われています。町民が利用する分には良いと思いますが、町外の方、観光客の部分に、助成を継続することは、町の財政的にも厳しくなると考えられます。そのため、例えば助成金以外のもので雄武町に来ていただける方法を検討していかなければならないと思っています。そのひとつとして観光を魅力的にし、助成がなくても「雄武町へ行ってみよう」と思ってもらえる仕組みづくりを行っていきたいと考えています。

次に「17 上・下水道の整備」です。この部分は、水洗化率のグラフにもあるとおり、着実に整備が進んでいますので、上下水道、生活に必要なインフラということで、第6期においても継続ベースで進めていきたいと思っております。第6期の課題(2)の括弧書きの後部に「MICS事業」とありますが、し尿処理の下水道がない地域のし尿を最終処理するというもので、雄武町が中心となり興部町、西興部村の分も合わせて共同で処理する設備を雄武町の浄化センターに併設して整備する計画があります。ただ、し尿処理ということとなりますので、先程の「15 環境の保全」の「ごみ・し尿処理の推進」に含まれますので、このMICS事業は

そちらの課題に組み込むことにしたいと思っております。

次に「１８ 住環境の整備」です。第５期計画の中で、平成２３年度から開始した「快適住まいづくり事業」は、新築、改築、修繕などを行った際に助成を受けることができ、非常に町民ニーズが高い事業です。また、地域経済も潤うということで、これも第６期においては必要な施策であると思っています。あとは、空き家問題ですが、空き家の情報を「空き家バンク」として、そういった仕組みを作っていると考えています。

次に、「１９ 消防・救急・防災体制の強化」です。第６期計画を策定するにあたり、この１０年で東日本大震災や熊本県等での大きな災害があり、雄武町内でも時化で海の被害がありましたが、町民アンケートでは防災対策意識が上がっていないことから、町で少しずつでも防災意識が高まるよう、避難訓練等の実施や呼びかけを行っていきたいと考えています。

次に「２０ 防犯・交通安全の推進」です。犯罪の中身的に全国的に凶悪化・巧妙化しており、逆に田舎が狙われやすいような事件が多く発生していますので、本町も例外ではないと思われます。交通事故について、近年は全国的に減少してきていますが、道路が良くなり車の安全技術の向上などの部分で支えられていることでもありますので、地域としては地道に啓発活動を実施していきたいと考えています。

次に「２１ 情報通信網の整備・充実」です。この１０年間でもっとも変化した部分で、スマートフォンやタブレット端末といった携帯端末が進化・普及したことが挙げられます。また、これに対応した地域の情報化、町ではホームページといった部分もありますが、そういった端末や紙媒体も大事ですが、そういったものに対応できるような地域情報化を進めていきたいと思っております。生活・インフラ関係については以上となります。

(河島会長)

ただいまの１５番から２１番、生活・インフラ関係について何か質問等がありますか。

(渡部委員)

ごみ処理の埋め立てについて、燃えるごみと燃えないごみの埋め立てる場所が同じであるようですが、分別する必要はあるのですか。

(佐々木財務企画課長)

当初、分別化した際は、焼却施設があり、現在停止中ですが、当時再稼動も検討されていたことからその意識づけとして、分別に至ったものです。

(河島会長)

収集してくれないごみがあると聞きました。高齢化が進んでいるので、細かい分別については、大目に見ていただきたいです。

(佐々木財務企画課長)

現状では難しいですが、高齢化が進み、ゴミの分別が大変であると意見が多く出た場合、対策が必要になってくると考えています。

(山片委員)

来年度以降もオホーツク紋別空港助成を道外者に対して助成を続けるのでしょうか。

(大水財務企画課長補佐)

来年3月までは現状のままで継続しますが、それ以降は本町を訪れる方々に対して、助成以外で来訪してもらう仕組みも検討しなければと思っています。

(直井委員)

沢木小学校付近の国道の除雪ですが、下校時間に間に合うように除雪していただいてありがたいのですが、下校時間までに歩道に雪が積もってしまい車道を歩かざるを得ないことがあります。

(佐々木財務企画課長)

国道の管理は開発局であるので、自治会要望として開発局へ要望する等の対応は可能です。町道の除雪であれば対応していきます。

(河島会長)

それでは22番から24番まで町民・公務員関係の説明をお願いします。

(大水財務企画課長補佐)

説明に入る前に22番のタイトルについて訂正があります。「住民主体」とありますが、「住民」は、単に住んでいる人という意味合いがありますので、市であれば「市民」、町であれば「町民」ということになりますので、「町民主体のまちづくり」に訂正してください。この項目については、まさにこういった場が「町民主体のまちづくり」のひとつと考えられますし、自治会長さんから要望をあげていただくことや、「ドコデモまちづくり講座」といって役場職員が地域に出向いて1時間程度講話する仕組みもあります。まちづくり講座については実施率、参加率が低く、行政のほうの情報の出し方も含めて改善を図っていきたいと考えています。また、イベント関係では、元々役場が事務局として実施していた産業観光まつりを、

現在はNPO法人が主体となって運営していますので、実行委員会方式といった手法も町民主体という部分につながっていくと思います。

次に「23 多様な交流の促進」です。実は雄武町は、北海道で一番外国人住民の割合が高いのですが、町民との表立った交流活動というものがなかなか公に出て来ないというのが現状です。本町は外国人技能実習生が多いですが、技能実習から一步踏み込んで、例えば「食」などの文化交流について第6期でやってみるのはどうかという検討も考えられます。

最後の項目です。これは行政的な話になっていますが、「24 効果的・効率的な行政経営」です。10年前の第5期計画作成時には市町村合併の議論が盛んな時代であり、雄武町は自立の道を選択したということで、徹底的に行財政改革を行っています。左下のグラフは町の貯金である基金残高であります、かなり増えています。お気づきの方もいるとは思いますが、新聞などでこの基金が多い自治体の地方交付税を調整するなどの報道もありましたが、やはり我々は小さな財政規模の自治体ですので、第6期の前半には図書館や共同の汚水処理施設など費用がかかる大きな事業がありますので、そういう部分で安定的に町のサービスをしていくには、ある程度の蓄えは必要だと思っています。この部分は第6期計画において我々も気を緩めずに取り組んでいきたいと考えております。説明は以上となります。

(河島会長)

ただいまの説明を含め、全体で何か質問や聞きたいことなどはありますか。

(大星委員)

図書館の建設予定とありますが、子どもや高齢者が簡単に利用できるような場所にしたいです。また、建設場所はどこの場所を予定しているのでしょうか。

(佐々木財務企画課長)

図書館整備基本計画において、町民の方が利用していて居心地がよい図書館というコンセプトが示されています。建設場所は、旧若草保育所周辺を予定しています。

(河島会長)

他に質問がないようですので、次の報告事項(2)の第6期雄武町総合計画策定における将来像についての説明に移ります。

(大水財務企画課長補佐)

資料3の「第6期雄武町総合計画策定における将来像」です。策定の趣旨が記載されていますが、現在も人口減少の歯止めが掛かっていない状況です。第5期総合

計画の10年間で人口減少のカーブをゆるやかにする思いもありましたが、一向に歯止めが掛かっていない現状で、第6期においては鈍化させ、下げ止まりの兆候があればと考えています。そういった意味でも、人口減少危機を克服するためにも新しい総合計画を策定することが必要と記載されています。

これまでの雄武町総合計画における将来像ですが、昭和46年度から平成9年度までの25年間の第1期から第3期までは「人間性豊かなオホーツク圏生産都市の建設をめざして」という目標でした。「都市の建設」など言葉は、今では馴染まない表現かと思いますが、この時期は、人口減少の転機を迎えていましたので、ハードを中心としたまちづくりを進めていた時代でした。第4期の総合計画は「味わいとやさしさに彩られたオホーツクの輝き拠点雄武」。現在の総合計画は、「変革と創造に挑むまち・雄武」です。変革というのは、国の合併の議論が進む状況に対して、「自分たちで創造し、挑戦する」という意味であります。

次頁に移り、現在の町政推進の理念と政策テーマが記載されています。政策理念は、「人口減少危機を総力で打開する」と掲げられています。そのための3つのテーマがあり、地域産業を成長させて、所得向上や雇用を創出させること大事だと考えています。雇用が生まれれば、生産年齢人口も増え、2つ目のテーマである出産・子育て、それから高齢者も含めて夢がもてるような経済的支援を推進していくことにつながります。それから、テーマの3番目として、様々な拠点化を図ることです。現在も図書館建設の話が進んでいますが、観光や文化、健康施設などといった、拠点づくりが必要ではないかというような政策テーマとなっています。

次頁に移り、「将来像」の提案シートについてです。参考までにオホーツク管内の市町村総合計画の将来像が記載されていますが、第6期の雄武町総合計画においても、10年後どのようなまちを目指すのか、キャッチフレーズ的なものを掲げ、それに政策を組み合わせしていくということとなります。もし、委員の皆様で10年後は、こういうまちであって欲しいという未来像や、もしくはキャッチフレーズの完成形でもなくて結構ですので、ワークショップの内容も参考として、まちづくりへの願いや思いがあれば、提案シートに記載していただければと思います。これは、役場の内部でも集約する予定となっています。提出期限が6月2日と記載されていますが、6月上旬くらいまで延長しますので、ご提案のある方は提出をぜひお願いします。以上で説明を終わります。

(河島会長)

ただいまの説明について、質問はありませんか。将来像の提案シートは、委員の皆様もふるって提出していただければと思います。質問がないようですので、次の「その他」に入ります。

(大水財務企画課長補佐)

「その他」について説明はありませんが、次回の審議会は、産業観光まつりもありますので、イベント後に開催したいと考えています。また、開催時期については、案内文書で送付させていただきますので、参加についてご協力をお願いします。

(河島会長)

今回も、皆様からいただいた貴重なご意見ありがとうございました。6月以降からは月一回ごとを予定して、年末まで続く訳ではありますが、どうぞ皆様の協力をお願いします。今日はこれで審議회를終わらせていただきますので、お気を付けてお帰りください。ありがとうございました。